



特別講演の長谷川賢二先生



研修会場の様子



武市寛氏の発表



福寿義憲氏の発表



小堀克夫氏の発表

県内三地区でブロック研修会を開催

令和四年六月三日(金)
西部、六月四日(土) 南部、六月五日(日) 東部と、
ブロック研修会を県内三

地区で三年振りに開催し、約三百九十名の方に御参加いただきました。

まず、西部ブロック(吉野川市アメニティセンター)では、来賓として原井敬吉野川市長、増富義明県議会議員から御挨拶をいただき、南部ブロック(阿南市文化会館)は、後藤田正純衆議院議員、三木亨参議院議員、表原立磨阿南市長、嘉見博之県議会議員からの御挨拶、東部ブロック(護国神社)では、三木亨参議院議員、内藤佐和子徳島市長、福山博史県議会

議員から御挨拶をいただきました。

また三日間を通して、中西祐介参議院議員の奥様である紗希さんから、中西先生からのメッセージを伝えていただくとともに、日本遺族会の畔上和男相談役から、水落敏栄会長・参議院議員の国政活動等の説明をいただきました。

研修会では、令和二年一月に斎行した本会主催の海外慰霊事業「フィリピン慰霊巡拝」に参加いただいた阿波市の武市寛氏(西部)、小松島市の



一般財団法人
徳島県遺族会

会報

発行所
徳島市雑賀町 東開21番地 1
一般財団法人
徳島県遺族会
TEL (088) 636-3212
FAX (088) 636-3213
http://izokukai.jp/
発行責任者
坂千代 克彦
印刷
グランド印刷株

福寿義憲氏(南部)、板野郡藍住町の小堀克夫氏(東部)から、体験発表が行われました。

各氏は、日本から遠く離れた灼熱のフィリピンで戦没された御父上への思い、残された家族の生活など情感を込めてお話しされ、参加者の中には涙を浮かべて聞き入る方もいらつしやいました。

また、遺族会事務局からは令和四年度の事業計画や旅行募集などについての説明がありました。

続いて、三日間を通して特別講演としては、徳島県立鳥居龍藏記念博物館館長(兼県立博物館副館長)の長谷川賢二氏から

『青い目の人形』と戦争―日米人形交流九十五周年によせて―との演題でお話いただきました。

長谷川氏の御講演は、戦前に行われた日米間の人形を通じて、平和と交流について、特に徳島に残るアリス人形のお話など、普段は聞くことのできない貴重なものであり、平和を見つめる新たな視点を教えていただきました。

このように、三ブロック各会場とも参加者一同、熱心にお聞きいただきました。今後とも、コロナ対策を取りながら、研修事業に取り組んで参りたいと考えるところです。

特別弔慰金の申請は

『今年度末』まで!

「第十一回戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」の申請は、各市町村の援護担当課で受付中です。

《請求期限》

令和五年三月三十一日

語り部事業のご案内

- 第72回 7月9日(土) 「御英霊への思い―沖縄での体験から―」 平松なりみ氏 (東京都)
- 第73回 8月13日(土) 「私の思う戦争とは」 西 英勝氏 (78) (板野郡)
- 第74回 9月10日(土) 「徳島大空襲―東新町での体験」 森野 悦次氏 (83) (徳島市)

13:30 ~ 14:30 会場: 護国神社参集殿
(感染症予防対策の為会場変更)

新役員体制（一部改選後）

副会長						会長	役職
山本健司	濱順子	林収一	木下豊幸	池添哲哉	近藤隆弘	上浦喜代志	坂千代克彦
青年部長	女性部長	名西郡	三好市	阿南市	板野郡	徳島市	海部郡

今回の理事会、評議員会では、定款の一部改正も行い、山本理事兼青年部長の副会長へ、登用、瀬戸理事（勝浦郡）の選任、正木理事（青年部副部長）の選任、酒巻事務局長の専務理事への登用を審議し、承認された。

また、令和三年度事業報告及び収支決算等を審議し、原案のとおり決定した。



理事会と評議員会を開催
～青年部から役員を登用し、組織の強化を図る～

県遺族会の第二十七回理事会が六月九日に、第十二回評議員会、第二十八回理事会が六月二十六日に護国神社参集殿において開催された。第二十七回理事会には、来賓として徳島県保健福祉政策課橋本副課長が出席した。

坂千代会長は、「今後の遺族会の最大の課題は組織の継承である。本会の青年部活動は活発となつていく。この機をとらえ、青年部長の副会長への登用など組織整備を行いたい。また、コロナのため中断していた事業を再開させるのは、遺児世代の責務であると考えている。引き続きの御協力を宜しく願う」と挨拶した。

今回の理事会、評議員会では、定款の一部改正も行い、山本理事兼青年部長の副会長へ、登用、瀬戸理事（勝浦郡）の選任、正木理事（青年部副部長）の選任、酒巻事務局長の専務理事への登用を審議し、承認された。

徳島県遺族会 理事名簿（一部改選後）

事務局長	青年部		女性部			5					4					3		2			1		ブロック					
	副部長	部長	副部長	副部長	部長	那賀郡	名西郡	名東郡	勝浦郡	小松島市	三好郡	美馬郡	三好市	美馬市	吉野川市	海部郡	阿南市	板野郡	阿波市	鳴門市	徳島市	市郡						
酒巻英紀	正木祐史	山本健司	佐々木厚子	緒方和子	濱順子	亀代高男	林収一	谷渕孝雄	瀬戸正彦	赤瀬敏幸	山口博視	高木一永	木下豊幸	小笠功	稲原一生	後藤田重喜	坂千代克彦	池添哲哉	神野武重	白川隆弘	近藤潔	尾形信之	古林勢一郎	上田哲夫	杉本敏則	井上喜代志	上浦喜代志	氏名

ホームページ随時更新中 !!

(R4.6.30 現在)

アクセス数 125,420

各種行事、記念館の語り部事業、慰霊巡拝等の最新の情報をお知らせしています。
携帯・パソコンの検索欄に

徳島県遺族会 もしくは
徳島県戦没者記念館 と入力

ホームページのアドレス
URL <http://izokukai.jp/>

携帯電話のバーコードリーダーで右記 QR コードを読み込んで下さい。



英霊にこたえる会

徳島県本部理事会・評議員会

合同会議開催

英霊にこたえる会徳島県本部は六月二十六日（日）、第五十四回理事会・第五十回評議員会合同会議を護国神社参集殿にて開催した。

会議は午後一時に開会、黙祷、坂千代会長代行の挨拶に引き続き、英霊にこたえる会中央本部会長表彰の池内慶治氏へ賞状と記念品を伝達した。

議事では、坂千代会長代行を議長に選任し、「中央情勢報告」「役員の一部交替について」「令和三年度事業報告及び歳入歳出決算（案）」「令和四年度活動方針・事業計画ならびに歳入歳出予算書（案）」について議案の審議が行われ、原案どおり承認された。

徳島県戦没者記念館 第13回特別企画展

「沖縄戦を語り継ぐ」

-戦史とひめゆり学徒-



「戦場」への動員240人



平和の礎
THE CONCRETE OF PEACE
平和の礎(いしじ)沖縄県平和祈念公園
(徳島県出身者刻銘数1,285名)

沖縄での戦争は、市民を巻き込んだ戦いでした。
戦後77年の歳月が過ぎ、「戦争体験を次世代にどう継承していくのか」、そのことが大きな課題となっています。現下の国際情勢を見ても、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さを深く考えさせられます。
沖縄の復帰50周年となる本年、改めて沖縄戦史を紐解くとともに、若者たちが当時をいかに過ごしたのか、その実相をお伝えします。

令和4年7月9日(土)13:30の語り部事業は、
沖縄での慰霊について語られます。
演題 「ご英霊への思い—沖縄での体験から—」
講師 平松 なりみ 氏(東京都)
場所 護国神社参集殿

令和4年
7/3日・8/31水 入場無料

平日/9:00~16:30 土・日・祝日/10:00~16:30

場所 徳島県戦没者記念館 あしたへ
徳島市雑賀町東開21-1 電話 088-636-3212 FAX 088-636-3213
http://izokukai.jp

展示内容
■ 沖縄戦史パネル、ひめゆり学徒隊パネル、戦地写真パネル
■ 遺書、戦地からの手紙、御遺品等の展示
■ 沖縄「徳島の塔」での慰霊記録
■ 沖縄戦を巡る書籍の紹介、記録映像(DVD)など



主催 一般財団法人徳島県遺族会
徳島県戦没者記念館奉賛会

徳島県戦没者記念館 第十三回 特別企画展

「沖縄戦を語り継ぐ—戦史とひめゆり学徒—」

沖縄の復帰五十周年となる本年、改めて沖縄戦史を紐解くとともに、若者たちが当時をいかに過ごしたのか、その実相をお伝えします。
会員の皆様など、多数の方のご来館をお待ちしております。

第56回 沖縄「徳島の塔」参拝団 募集

~~~~~ 旅行日程 令和4年11月7日(月)~8日(火) ~~~~~

訪問先 南風原(沖縄陸軍病院南風原壕群20号・南風原文化センター)平和祈念公園(「徳島の塔」・平和の礎・平和祈念資料館)ひめゆり平和祈念資料館

旅行代金 48,000円

参拝団員 10名程度(県庁役職員・本会役員を含む)

締切期日 令和4年9月1日(木)  
※定員になり次第締切させていただきます。

お申込先 〒770-8021  
徳島市雑賀町東開21-1(護国神社内)  
徳島県遺族会事務局  
(TEL.088-636-3212)

| 日時 | 曜日      | 行程                                                                                                                                                               |
|----|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 11/7(月) | 護国神社(貸切バス) → 高松空港(8:30) → 那覇空港(ANA1621 11:45) → 沖縄県護国神社(正式参拝) (13:55) → 南風原(沖縄陸軍病院南風原壕群20号および南風原文化センター見学) (14:30) → 南城(泊) (15:30) (17:45頃)                       |
| 2  | 11/8(火) | ホテル(戦没者慰霊祭) → 平和祈念公園(「徳島の塔」・平和の礎・平和祈念資料館) (8:30) → ひめゆり平和祈念資料館 (9:00) (2021年4月リニューアル) (11:10) → 那覇空港(ANA1622 13:00) → 高松空港(14:55) → 護国神社(16:50) (17:30) (19:00頃) |

## 語り部事業講演要旨

●第69回語り部事業 4月17日(日)  
「子ども、若者に戦争体験を語り繋ぐこと」NPO 法人牟岐キャリアサポート理事長  
大西 浩正氏

太平洋戦争があったことが遠い昔のことになった。子供たちが戦争を自分ごととして捉えることが難しくなっているが、今、ウクライナで戦争が起こっている。この機会に、お話ができるのは特別なめぐり合わせのように感じる。

私は58歳、元県職員で考古学の学芸員でもあり、気象予報士でもある。平成27年大学生とともに『NPO法人ひとつむぎ』を設立し、顧問の立場で大学生の活動を支えた。平成29年県庁を早期退職し、『NPO法人牟岐キャリアサポート』を設立した。ここまでの私の簡単な経歴である。

県教委時、私にとって大きな出来事があった。一つ目は平成23年の東日本大震災、二つ目が平成26年に牟岐町で開催された高校生対象のサマースクールである。

平成23年3月11日に東日本大震災が発生。私は、県庁で教職員を宮城県に派遣する手配を担当し、本県教職員の被災地での活動の様子を、マスコミを通じて県民に発信した。派遣された教職員の頑張りのもあり、支援先である宮城県女川町では、震災後約一か月後に学校が再開された。校舎から聞こえる子供たちの声は、希望の光のように被災した町に降り注いだと聞く。発災から2か月後に私自身も女川町に足を運び、徳島商業高校の女川第二小学校に対する交流支援に関わった。震災直後の被災地は、今のウクライナ、あるいは太平洋戦争中の空襲を受けた町のようなひどい状態であったが、そうした中で親族を亡くした子どもたちが力強く生きる姿を目にし、自分自身を見つめ直す契機となった。

平成26年、徳島県教育委員会主催で牟岐町にてサマースクールが開催されることになった。国内外の大学生が運営したプログラムの素晴らしさ、高校生が日々成長する姿に心が揺さぶられた。

サマースクール終了直後、運営スタッフだった大学生から「サマースクールを支えてくれた牟岐町に感謝している、恩返しをしたい。」と相談を受け、学生たちと『NPO法人ひとつむぎ』を立ち上げた。しかし、大学生が活動を続け

ていくには、大学生と行政・学校・地域住民の橋渡し役となる組織が必要と強く感じるようになり、平成29年3月、53歳の時に県庁を早期退職し、中間支援組織『NPO法人牟岐キャリアサポート』を設立した。

平和学習への関わりでは、県教委の在籍中に、沖縄県の南風原町から徳島県との教育交流の打診があり、南風原町を訪れたことに遡る。南風原町で徳島県沖縄県人会会長の藤原政勝さんに出会い、学校間の交流事業に取り組むことになった。当時の私は、沖縄戦のことを恥ずかしいほど知らない状況であったが、南風原町の陸軍病院壕などの戦跡に足を運ぶ中で、意識が大きく変わった。なお、南風原町は、沖縄の中で唯一海に面しない自治体である。海上からの攻撃を受けにくいことから、丘陵地の地下に陸軍病院壕が設けられ、院長以下、軍医・看護婦・衛生兵・ひめゆり学徒らがこの場所で傷病兵の治療に当たったという。

時を経て、一昨年に牟岐中学校と南風原文化センターとの間でオンライン平和学習を企画、昨年は、ひとつむぎの学生とともに運営することになった。地元の視点を取り入れたいと徳島県遺族会の坂千代会長（牟岐町）に相談したところ、海部郡出身でお父様を沖縄戦で亡くされている演副会長に御協力頂けることになった。

昨年の平和学習のコンセプトは「沖縄であったことを伝える」「遺族の声を届ける」に定め、南風原文化センターからは、生き残ったことで心に深く負った傷（戦争トラウマ）の話を、演副会長からは、遺族の立場から沖縄戦で戦死した亡き父に対する一途な想いの話をしていただいた。2つの『生の声』は、当事者の気持ちが痛いほど伝わり、祖父母の世代も、戦争も知らない中学生の心に響いた。

今、コロナ禍で様々な行事開催が中止となり、子供たちが学びの機会を失っているということは本当に怖いことである。平和学習もしかりで、一昨年からはオンライン授業ではあるが学びを繋いでいる。昨年の授業終了後に、中学生から届いた手紙には「この世から戦争を無くすためにも、今回学んだことを、戦争を知らない人達に伝えていきたい」と書かれていた。時間の経過と社会の変化に伴い、太平洋戦争のことを自分事に置き換えることは困難であるが、時代を越えて当事者の気持ちを理解し、さらに次代に繋げていくことが大切なのである。

日本遺族会  
中国・四国ブロック会議  
松山市で開催

日本遺族会の第四ブロック（中国・四国）会議が五月十六日（月）に愛媛県松山市において、水落敏栄会長のほか、各県から約二十名が参加して開催された。本県からは坂千代会長、演女性部長、山本青年部長及び事務局長が出席した。

まず愛媛県護国神社へ正式参拝を行い、ご英霊に感謝を捧げるとともに、本県女性部が制作した千羽づるの奉納を行った。その後、会議が始まり、今後の戦没者遺族の処遇改善に関する説明と、水落会長の国政での活動が報告された。また、令和五年度の開催は岡山県と決定された。





## 語り部事業講演要旨

●第70回語り部事業 5月22日(日)  
「大東亜戦争の生き証人、  
そして徳島白菊特攻隊」

板野郡松茂町 春藤 嘉雄氏 (91)

(第1部)「終戦  
までの戦史と体  
験」大東亜戦争が  
始まったのは私

が10歳の時で、軍人体験はありませんが戦争体験はたくさんあります。日本の敗戦の色が強くなってきた昭和20年3月、私は14歳で学徒動員として広島県呉市の軍需工場へ動員されました。3月19日に徳島から約300人が夜行列車で出発し、20日に呉の工場に着いた時には20機ほどの完成した飛行機が艦載機の空襲を受けて焼けていました。空襲は度々あり、5月5日の11時頃、軍需工場に大空襲がありました。私は年少工で職員の昼の配膳の準備をしていた時、先輩が「何をしよるんな。警戒警報入っとるのに、はよ避難せい」と言ってくれたので隧道に走りました。隧道に逃げるや否や爆弾がすぐに落ちてきて、B29の1トン爆弾の攻撃を2時間位受けました。落ちる度に大震動があり、中にいる人は言葉にならないような悲鳴を上げ、多数の14歳の女子工員が機械にしがみついて「おかあちゃん、おかあちゃん、おかあちゃん」という泣き叫んだ悲鳴は今でも耳に残っており、絶対に終生忘れません。何時間か過ぎて外に出るとたくさんあった工場は飛んで鉄骨だけが残っていました。400機以上のB29が爆撃に来て、飛行機、船や軍艦を作る工場を目的に徹底的に攻撃をされました。私達の班に心身剛健な人が20人程いたのですが、10人くらいは警戒警報が入ったら機銃の陣に配置されるのです。工員といえども機銃を撃ちに行くのです。誰も帰ってきませんでした。翌日工場に行くと爆死した人が何百人もあり、体がバラバラになっていました。その死骸を私達、生き残っている工員が拾い集めたのです。手を拾い、足を拾い、肉を掴み、みんなが拾ったのです。2、3日もそういう状態が続きました。その拾った肉片を私達の宿舍の横の川原で、松丸太を組んで何日も野焼きをしました。その燃えている火と臭いは本当にこの世の地獄でした。昭和20年7月24日から28日の5日間、呉軍港に停泊していた14隻の軍艦に米艦載機が攻撃を始めました。5日間の攻撃で軍艦は全滅したのです。

8月6日の朝、作業を始めて間もなく、真っ赤な閃光が目に映りました。同僚と「今のは何か」と話していると、「ド

ン」と大きな音がしたのです。二度びっくりして、四方を見渡していたら、北西の方向にきのこ型の雲がわき上がりました。これが原爆でした。

8月15日の昼前に、「正午に重大な放送があるから全員ラジオ塔の前に集まれ」と命令があり、大勢の工員が集まりました。天皇陛下の玉音放送が始まりましたが、雑音が多くて聞きにくく、わずかに「耐えがたきを耐え、しのびがたきをしのび」と聞こえました。年配の工員達がすすり泣きを始めました。最後に年配の人に「日本は戦争に負けた」と聞き、一瞬頭が真っ白になりました。これが終戦であつたのです。

私はわずか6カ月の間にこの世の地獄を何度も見てまいりました。

「戦争はしてはいけない。全世界の平和を祈る。」

## (第2部)「徳島白菊特攻隊について」

私が住んでいる松茂町には「白菊特攻隊」がありました。昭和20年春には松茂の上空を多く飛んでいました。白菊は零戦のような優秀な飛行機ではなく、型はずんぐりとスピードも遅い海軍の練習機でした。日本が敗戦濃厚になり、特攻隊として使うので松茂へ全国から集まってきて、その数は50機ぐらいであつたそうです。松茂村広島には隊外酒保があり、隊員達の慰安所があつたので、隊員をよく見ていました。私の友達の家に下宿をして居た隊員がいました。私の友人は12才、隊員は19才でした。一緒に御飯を食べ風呂に入り、兄ちゃんのような存在であつたのです。その兄ちゃんが特攻に出撃する前の日に、家族みんなで航空隊の隊門まで送って行ったそうです。もう1軒、2人の特攻隊員が下宿していましたが、敗戦が決定した時、2人の隊員は近くの陣地で、無念のために相談で自決したのです。下宿をしていた家は孫の代になっていますが、今も家族が墓守りをしています。白菊特攻隊は松茂から出発した56名が戦死をしています。この若い56名の霊に対し、鎮魂の唄を捧げます。

(唄) 祖国を後にはるばると 太平洋の浪枕(なみまくら)  
許して下さいお母さん 休暇に帰ったあの時に  
真実言えずに今日まで 僕は特別攻撃隊  
男子の本懐(ほんかい) 今日の日を  
待っていました僕でした  
天皇陛下万歳と 叫んだ声が空の果て



ロシアの侵攻に苦しむウクライナを支援するため、本会青年部が主体となり、五月一日、徳島市問屋町の織維団地と徳島駅前募金活動を行った。青年部役員など九名は、ウクライナ国旗の色をした募金箱を手を協力と呼びかけた。最初は、なかなか思うように募金が進まなかったものの、メンバー皆一丸となり、声掛けを行った。そのため一度通り過ぎた後、お金を準備して戻ってくる人もいた。

山本青年部長は「永久に戦争は反対をモットーにやっている。戦争を早く終わらせたい思いで、今回の募金活動をはじめることとなった。」と思いを熱く語った。後日、お預かりした募金(七万五七一円)は日本赤十字社に委ねウクライナへと届けられた。

県青年部が  
「ウクライナ支援募金活動」  
を実施

地方だより

令和四年度 鳴門市戦没者追悼献花

鳴門市戦没者追悼の日となる五月十日に、妙見山公園内にある忠魂碑で「鳴門市戦没者追悼献花」が行われました。新型コロナウイルス感染症予防・防止の観点から、例年執り行われていた追悼式ではなく追悼献花という形で開催し、今年で三年連続となります。

主催者の鳴門市市長、来賓の鳴門市議会東議長（代理出席 長濱生活福祉委員長）、徳島県遺族会坂千代会長、鳴門市遺族連合会上田会長より、献花と追悼の言葉が捧げられた後、出席した鳴門市遺族連合会の各地区会長より献花が手向けられました。

新型コロナウイルス感染症が収束していない状況でも、戦没者への追悼の意を表したいと、感染対策を行った上で開催された追悼献花ですが、今日の平和と豊かな生活の礎となられた英霊に対する、心からのご冥福と恒久平和への祈りが捧げられました。

鳴門市遺族連合会



令和四年度 徳島市戦没者追悼式開催

去る五月二十三日、徳島市生涯福祉センター（ふれあい健康館）において、令和四年度徳島市戦没者追悼式が執り行われました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により三年ぶりの開催となった今年の追悼式は、例年より規模を縮小しての開催となりましたが、各地区の遺族を中心に五十七人が参列し、戦没者六千七百九十三柱の御霊の冥福を祈りました。

式典では、参列者全員による黙とうの後、内藤佐和子市長が「先の大戦から七十六年もの月日が過ぎ去り、あらためて戦没者諸霊の遺徳をしのび、再び悲しみの歴史を繰り返さないよう平和への誓いを新たにします」と式辞を述べました。また、遺族を代表して追悼の言葉を述べた徳島市遺族連合会の上浦喜代志会長は、昨今の世界情勢を踏まえて「戦争で得られるものはない。一日も早い終息を願って已まない」と訴えました。

さらに、徳島文理中学校三年の山本恭花さんが、「戦争と平和」と題する作文を朗読し、「戦争について考えることにより戦争の記憶の風化を防げる。戦争について理解し知ること、後世へ伝えていくことが、今、若者世代のすべきことではないだろうか」と平和への真摯な思いを語りました。

徳島市  
遺族連合会



令和四年度 三好市戦没者追悼式の開催

令和四年五月二十五日（水）池田総合体育館において三好市戦没者追悼式が行われました。令和元年・二年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、中止となりましたが、今年度は参加者を各遺族会の代表者三十名と縮小し、市内一ヶ所での開催となりました。

式典では、高井市長の献花・式辞のあと、三好市遺族会を代表して木下会長より献花並びに追悼の言葉があり「世界では今なお戦争が続いている」と強く述べられました。

その後、ご来賓より献花と追悼の言葉の後、三好市立中学生一同から平和へのメッセージが紹介され、「戦争では尊い命が奪われ、一人一人の希望や夢や未来も失われた。平和とは決して用意されたものでも、約束されたものでもなく、今を生きる私たちの努力によって維持されるもの」と代読されました。最後に参列者全員で献花を行い、戦没者へ哀悼の意を捧げ、平和の継承を祈りました。

三好市遺族会



令和四年度 板野町戦没者追悼式

令和四年五月二十八日に板野町戦没者追悼式が、板野町民センターにおいて開催されました。

昨年度は、コロナ禍ということでも町内三ヶ所の忠魂碑での献花となりましたが、新型コロナウイルス感染症対策を万全にして三年ぶりの追悼式の開催となりました。

玉井町長、県遺族会会長代理近藤副会長の式辞のあと、参列者が献花を行い、板野町遺族会玉田副会長が謝辞を述べられ英霊へのご冥福と平和の継承をお祈りしました。

板野町遺族会





令和4年度  
徳島県戦没者  
遺族大会を開催

靖国神社の山口宮司様  
を迎え、県遺族大会を平  
成30年以来、4年振りに  
開催いたします。

日 時… 令和四年八月二十四日(水) 十三時～十五時四十分  
場 所… あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)  
記念式典… 大会決議、知事表彰、会長表彰、平和作文表彰など  
記念講演… 講師 靖国神社 宮司 山口 建史 氏  
演題 「靖国神社の本質」

—お慶び—

県民表彰受賞

徳島県遺族会副会長・  
女性部長  
海部郡遺族連合会女性部長

濱 順 子 氏



令和4年6月6日受賞

多年にわたり県遺族  
会、郡遺族連合会等の  
役員として、組織の発  
展、会員の福祉向上に  
貢献された功績により  
表彰を受けられました。  
心よりお慶び申し  
上げます。

地方だより

令和四年度 美馬市戦没者追悼式

令和四年度 美馬市戦没者追悼式が令和四年  
六月三日、穴吹農村環境改善センターにおい  
て執り行われました。

今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス  
感染症対策を講じた上で、規模を縮小し  
て開催されました。

美馬市戦没者遺族を代表し、美馬市遺族会  
役員と来賓の二十九名が参列し、美馬市内十  
か所ある忠魂碑から御英霊をお迎えし、参列  
者全員で黙祷を捧げ、藤田美馬市長が「悲し  
みの歴史を二度と繰り返さないという決意を  
新たにし、一人一人が何をすべきかを考え、  
命の尊さと平和の大切さを継承していく」と  
あいさつがあり、参加者が献花台に白菊を捧  
げました。



最後に、美馬市戦没者遺族を代表して美馬  
市遺族会小笠会  
長がお礼の言葉  
と、子どもをは  
じめ、多くの  
人  
に戦争の悲惨さ  
を考へてほしい  
とあいさつがあ  
り追悼式は無事  
終了しました。  
美馬市遺族会

令和四年度 牟岐町戦没者追悼式

牟岐町戦没者追悼式は六月八  
日、牟岐町海の総合文化センタ  
ー大ホールに於いて執り行われま  
した。日清戦争から太平洋戦争  
までに戦死した六百二十二人の  
冥福を祈り、最初に七十人の参  
列者全員が戦没者に黙祷を捧げ  
ました。

杵富治町長による献花及び式  
辞のあと徳島県遺族会坂千代克  
彦会長の献花、追悼の言葉、続  
いて議長、教育長が献花、そし  
て参列者全員が白菊を献花し戦  
没者の冥福をお祈りしました。

最後に戦没者遺族を代表して猪  
谷功副会長が謝辞を述べ終了し  
ました。

戦没者追悼式は新型コロナウイルスの  
影響で令和二年度は中止、令和  
三年度は町長、遺族会役員の十  
人で規模を縮小して忠魂碑で開  
催、今年度は三年ぶりに多くの会  
員さんが参列した素晴らしい追  
悼式であったと思います。

牟岐町遺族会



徳島県護国神社

みたままつり  
大幅に縮小して斎行予定

当神社恒例の夏祭り「みたままつ  
り」は皆様のご協力のもと開催して  
まいりましたが、新型コロナウイルス  
感染症を配慮し、今年も提灯の掲  
揚を中止するなど、規模を縮小して  
斎行致したく存じます。

開催行事内容につきましては左記  
のとおりですので、何卒ご理解ご協  
力賜りますようお願い申し上げます。  
尚、一般献灯につきましては再度  
一年間延長した取扱いとさせていただきます。

記

一、みたままつり神事(茅の輪くぐ  
り)並びに「夏越の大祓式」

〔日時〕

令和四年八月六日(土)午後三時

ご案内は護国神社同奉賛会役員  
のみと致しますが、当日はどなた  
でもご参列いただけます。

二、小中学生奉納書道大会・こども  
あんどん奉納八月一日から十五

日まで社殿にて作品展示

三、人形供養

八月一日から十五日まで社務所  
にて受付

古くなった人形やぬいぐるみを  
お持ち下さい

【お問合せ】

徳島県護国神社社務所  
電話 〇八八―六六九―三〇九〇

百歳のお慶び

川口 初子さん (小松島市)



小松島市小松島町の川口初子さんが、6月10日に百歳のお誕生日を迎えられました。当日川口さんは市内の病院に入院されていたため、ご家族に徳島県と小松島市からお祝い状と祝い金が、また、徳島県遺族会よりお祝い状と記念品が贈られました。

川口さんは、大正11年に4兄弟の長女としてお生まれになり、ご結婚なさってから北島町より小松島市へ移られたとのこと。2女に恵まれ、夫婦で青果店を営まれておりました。また、

戦争により夫の弟を亡くされてからは、小松島市遺族連合会の会員として、長期に渡りご尽力いただいております。

趣味で裁縫をされており、新型コロナウイルス感染症がまん延した際には、手作りのマスクやエプロンを家族にプレゼントされる等、手先がとても器用な方だそうです。また、近くを散歩していると近所の方が声をかけてくれたり、お家まで会いに来てくれたりするそうで「幸せ者だな。」と嬉しそうに話されていたことを伺いました。

入院前は、孫にも料理を振る舞う家族思いな面もあり、商売一筋で10年前まで商売に励まれ、家族を大切にされている川口さんの生き方に、ご家族からも憧れる存在であるとのこと。

この度直接お会いすることはできませんでしたが、普段はとてもお元気で誕生日をととても楽しみされていたと聞いております。これからも変わらずお元気で過ごされますよう、心よりご祈念申し上げます。

小松島市遺族連合会副会長兼小松島地区会長 前川 英貴

小山 歌子さん



歳を迎えられました。

徳島県遺族会会長からお祝状と記念品、板野町遺族会からはお祝い金をお贈りしました。現在はお二人とも板野町内の施設に入所されており、コロナ禍のためご家族との面会が困難な状況ですが、施設のみなさまに優しく見守られながら元気に過ごされております。

小山さんは、甘いものが大好きで兼業農家で畑づくりをされていました。

瀬部さんは、お花が大好きで社交性があり明るくてみんなから慕われています。お二人ともいつまでもお元気で過ごされますよう、心よりご祈念申し上げます。

板野町遺族会会長 近藤 隆弘

瀬部 ノブエさん (板野町)



令和4年3月28日に板野郡板野町小山歌子様、同年5月12日に瀬部ノブエ様がともに百

戦没者記念館だより 写真展示数 8,141柱 (R4.6.30 現在) —

来館者のお声

- なぜか涙が止まらず、ゆっくり全部を見る事が出来ませんでした。亡くなった方の写真に桜の写真があるのを見て、写真さえもなかったのだと思うと本当に辛いです。二度と戦争のない平和な世界を心から祈ります。(40代女性)
- 母の兄3人、弟が亡くなっています。私共は平和に暮らしていますが、亡くなった方々の時計は止まったままで黙して語ることはありません。黙って、私達の思いを待っておられるということを深く深く感じています。(70代女性)
- 若い世代の方々が戦死され、改めて家族の深い悲しみが想像される。今、ウクライナでロシアの侵攻が続いており、一般市民や子供達もたくさん亡くなっており、戦争の残酷さを改めて思い知る。戦争はいかなる理由があろうと絶対にしてはいけない。(60代男性)
- すばらしい施設であり、施設の建設・運営に当たられた遺族会関係者の純粋な思いに感銘すると共に、その努力に心から敬意を表します。「あしたへ」という当館の名称に込められた思いとその背景となった戦争の歴史の重みを、今日のロシアによるウクライナ侵略の戦争をみる時、その意味を深く実感しました。(80代男性)
- 父がどうしても行きたい所があると言って姉妹で一緒に来ました。写真を見ていると心がつまり、涙が出てきました。こんなつらい事は二度と起こらないようにと願います。(60代女性)
- 2022年、ロシア・ウクライナの戦争が活発になり、世界の人達が悲しみ苦しんでいる。「日本」「徳島」も過去には大変な出来事があったのを知りたく来館し、実際に使用していた物品、家族への手紙を見て、今の自分たちは本当に幸せだと思った。「この過去の出来事は決して忘れてはいけない。ずっと語り継いでいかないといけない。」改めてそう思った。これからも、この先、世界、家族、友人が希望であふれる世界でありますように。(30代男性)

遺族会の動き

令和四年五月～六月実施行事

(五月)

1日 青年部によるウクライナ支援街頭募金 (徳島駅前外)

10日 女性部役員会 (護国神社)

16日 日本遺族会中四ブロック会議 (松山市)

17日 監事会 (護国神社)

19日 英霊にこたえる会監事会 (護国神社)

22日 正副会長会 (護国神社)

22日 語り部事業 (護国神社)

(六月)

3日 西部ブロック研修会 (吉野川市アメニティセンター)

4日 南部ブロック研修会 (阿南市文化会館)

5日 東部ブロック研修会 (護国神社)

9日 理事会、記念館奉賛会総会 (護国神社)

18日 水落敏栄会長激励会 (織維会館)

19日 青年部役員会 (護国神社)

19日 語り部事業 (護国神社)

21日 正副会長会 (護国神社)

26日 評議員会 (護国神社)

26日 英霊にこたえる会理事会・評議員会 (護国神社)

29日 理事会 (護国神社)

26日 富山丸慰霊祭 (護国神社)

3日 8月末 特別企画展 (戦没者記念館)

9日 正副会長会議 (護国神社)

9日 語り部事業 (護国神社)

(八月)

6日 みたま祭 (護国神社)

7日 英霊にこたえる会街宣活動 (織維団地)

13日 語り部事業 (護国神社)

14日 全国戦没者追悼式 (日本武道館)

15日 平和祈念祭 (護国神社)

24日 徳島県戦没者遺族大会 (あわぎんホール)

(九月)

10日 語り部事業 (護国神社)

12日 日本遺族会75周年記念事業 (東京)

下旬 英霊にこたえる会中四ブロック会議 (香川県)

28日 神恩感謝祭 (護国神社)

令和四年七月～九月行事予定